

4月の窓

詩人の大岡信さんは、「椿という字は日本で作られた漢字で、春の木と書かれ、春の到来を告げる聖なる木とされた。」とある本に書いていました。北国山形では、これから桜や桃の花が咲いては散ってゆきますが、この季節には椿も忘れられない花と言えます。俳人の長谷川權さんは、その違いについて「桜や桃は花びらも薄くその色も淡い紅。遅れて芽吹く葉も明るい緑をしていて全体として軽快な印象ですが、椿の花は真紅。葉も肉厚の濃い緑色です。」と書いていました。また、桜や桃と違って、椿の花は花全体が地面に落ちるのが特徴でもあります。

椿落ちてきのふの雨をこぼしけり……………蕪村

赤い椿白い椿と落ちにけり……………河東碧梧桐

写真は、本校の和風庭園の椿です。



3月を振り返ると、3日に卒業式があり、232名の生徒が巣立っていきました。卒業式の正式名称は「卒業証書授与式」で、その名のとおり、卒業証書を授与するのが一番の目的です。小学校や中学校では、全員の児童・生徒の卒業証書を授与する人が多いようですが、高校では、人数のこともあり、代表者への授与としている学校が多いようです。本校でも、担任が卒業生一人ひとりの名前を読み上げたあと、私がクラスの代表者に授与させてもらいました。担任の先生は普段生徒の名前を間違えることなどありませんが、この日は絶対間違っただけいけないというプレッシャーから、緊張して名前を読み上げることになりました。もちろん、間違いはありませんでしたし、私も間違えることなく授与することができました。写真は、クラスの生徒の氏名を読み上げている担任の先生と、卒業式の最後に「蛍の光」を斉唱しているところのものです。



卒業式から7日後の3月10日には、公立高校の入学試験がありました。合格発表の17日には、予定された午後4時に242名の合格者を発表することができました。本校では、写真のように、合格者の受検番号を書いた紙を板に貼り付け、2階から掲示する方法が続いているとのことでした。発表予定時刻の前から、多くの人が集まり、発表後は、写真を撮る人も多くみられました。



3月21日から兵庫県で開催された「第3回科学の甲子園全国大会」に、本校科学部が出場してまいりました。この大会は、全国の高校生が学校対抗で科学技術・理科・数学などにおける複数分野の知識・技能を競うもので、今年で3回目となります。競技には筆記と実技があり、各チームから競技ごとに数名が参加し、問題を分担・相談しながら協同でその成果を競い合っていきます。第3回全国大会には、6704名のエントリーがあり、各都道府県の選考を経て選抜された47校、合計366名の高校生が、科学に関する知識とその活用能力を駆使してさまざまな科学的な課題に挑戦しました。総合成績では、三重県立伊勢高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、滋賀県立膳所高等学校がそれぞれ1位、2位、3位となりました。そのほか、物理部門の実技競技では、本校が第2位という成績を収めてきました。科学部以外の生徒も助っ人として加わり、8名の生徒の協力によるもので、学校に戻った生徒から大会の様子を報告してもらいました。写真は、第2位の賞状です。



年度末の人事異動で、8名の先生が本校を離れることになりました。本校での勤務年数は、1年から12年までと異なりますが、本校のためにご尽力いただきました。4月からは9名の新しい先生をお迎えし、さっそくいろんなところで活躍していただいております。

最後に、今年度は、山形東高校の近隣にある名所・旧跡・観光スポットなどを紹介してまいります。今月は、本校の南200メートルほどのところにある三島神社を紹介します。

三島神社の起源は、山形城主の最上義光が娘の菩提寺として天童市から移築した専称寺の境内に祀られていた三嶋稻荷明神であると言われていています。明治4年の神仏分離令で、馬見ヶ崎川の河川敷だった現在の地に遷座され、三島稻荷神社と改称されました。山形市観光協会の説明には、「初代山形県令の三島通庸は、たまたま自分と同姓の神社があるので、その奇縁に感激して明治12年7月神社本殿を改築し、新たに静岡県三島大社の分霊を勧請して社名を三島神社と改称した。そしてそれまでの三島稻荷神社を境内神社として、三島神社の東側に併設した。」とありました。最初の写真が三島神社、次の写真がすぐ隣にある三島稻荷神社です。

